

# 福田紀彦 新市長 これからの川崎市は？

## 「限りない可能性を秘めた川崎を一步先へ、もっと先へ」



- 1963(昭和38)年2月6日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
- 東京都三鷹市で9年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
- セブーンイレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
- 2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
- 2007年4月、同2期目当選。
- 2011年4月、同3期目挑戦するも惜敗。
- 民主党神奈川18総支部 常任幹事
- 民主党神奈川県政策委員
- 川崎地方自治研究センター客員研究員
- 経済産業省 システム監査技術者
- 妻と長女の3人家族 下作延在住

(事務局)

川崎市議会の12月定例会は、福田紀彦新市長にとっての初議会でしたね。

(堀添)

はい。議会初日には「川崎を一步先へ、もっと先へ」と題した施政方針演説もされました。この中では、時代認識と将来ビジョン、市政運営の基本姿勢、基本政策の方向について述べられるとともに、首都圏における川崎市の役割や今後の計画行政のあり方についても触れられています。(注：川崎市のサイトにも掲載されています。)

選挙公約の中では十分具体的ではなかった個々の政策が、議会での議論を通じて徐々に明らかにされたように思います。

(事務局)

実際に施政方針を聞かれて、どのように感じられましたか。

(堀添)

市長に就任してから10日後に迎えた市議会初日でしたので、多くの政策は調整しながらということだったと思います。市政全般にわたっての具体的な政策が示されたわけではありませんが、新市長として重点と考えている政策の一部が姿をあらわしたように感じました。とくに、子育て環境の整備として、保育所待機児童の解消と中学校給食の導入を重点施策として位置付けることが改めて強調されています。

### 市政への考え方

- 1 歴史、時代認識
- 2 将来ビジョン
- 3 市政運営の基本姿勢
- 4 基本政策の方向
  - (1) 子育て環境
  - (2) 教育改革
  - (3) 安心いきいき社会
  - (4) 都市整備
  - (5) 防災対策
  - (6) 市役所の改革
- 5 首都圏や世界の視点からの新たな産業都市
  - (1) 首都圏全体の機能分担
  - (2) 世界と競うまち
- 6 今後の計画行政のあり方
- 7 結び

また、「対話」と「現場主義」という基本姿勢とともに、新たな総合計画の策定にも着手していくことが表明されています。これまでの阿部市政の12年間を踏まえ、今後どのように川崎市の市政運営を行っていくのか。行政区の位置づけや市民参加のあり方など、この12年間の市政運営の中で川崎市自治基本条例を中心に制度化された仕組みに対してどのように取り組んでいくのかという点も、福田市政を考える上での大切なポイントだと思います。

いずれにしても、川崎市議会としても丁寧に議論を重ねていくことが求められているのではないのでしょうか。

(事務局)

ありがとうございました。

# 捲土重来

【けんどちょうらい／けんどじゅうらい】

一度敗れたものが、砂ぼこりを巻き上げることごとく重ねてやって来ること。 出典：杜牧『題烏江亭』

## （事務局）

堀添さんは、2003年の川崎市議会議員選挙で初当選をされ、2007年にも再選されましたが、前回2011年の選挙では、僅差ではあったものの落選となってしまいました。私も、とても落胆したのを今でも覚えています。

## （堀添）

本当に申し訳なかったと思います。

落選された方であればどなたも感じられることですが、多くの方にご支援いただいたにもかかわらず、結果につなげられなかったことが一番辛いですね。

みなさんボランティアとしてチラシを配ってくださったり、集会に参加してくださったり、あるいはご自宅にポスターを掲示してくださった。また、4,672名もの有権者の方々が私に期待をし、投票してくださった。落選したということは、そうした思いを結実させることができなかったわけですから、本当に申し訳ないと思います。

## （事務局）

前回の川崎市議会議員選挙では、堀添さんを含め5名の現職議員が落選されました。近年の選挙としてはあまりなかったことですね。



毎週の駅頭活動も3年目を迎えました。  
（溝口駅：水曜日 梶が谷駅：金曜日）

## （堀添）

そうですね。様々な要因がありますが、現在の市政や政治全般に対する閉塞感、変えていかなければいけないという民意のあらわれかもしれません。そうした思いに対して十分応えることができなかったということだと思います。

## （事務局）

落選からそろそろ3年になります。この間、いろいろと大変だったのではないのでしょうか。

## （堀添）

はい。幸いなことに多くの方からのご支援により、活動を続けていくことができました。落選された方々の中には再チャレンジの意志があったにもかかわらず、断念しなければならなかった方も少なくありません。現在、再チャレンジを明確に表明できているのは私だけですが、不十分ながらも活動を続けられているのはとてもありがたいことだと思います。

## （事務局）

落選されてからも、駅頭での宣伝や「川崎市議会に参加する会」などの活動を続けられてこられましたね。

## （堀添）

正直なところ、生活を支えなければいけませんので、活動に振り向けることができる時間は決して十分ではありません。現職市議の時には政策活動にかなり集中して取り組んでいましたので、その分、直接市民の方々に対する報告の機会が少なくなってしまったと思います。そうした反省をふまえて、落選した年の8月から溝口駅南口での駅頭宣伝を始めました。現在は梶が谷駅でも行っており、毎週2回の報告・宣伝活動をしています。

## （事務局）

駅頭宣伝では「捲土重来（けんどちょうらい／けんどじゅうらい）」ののぼり旗を掲げられていますね。反応はどうでしょうか。

## （堀添）

駅頭宣伝では、もちろん厳しい声を受けることもあります。しかし、はじめてから3年

目となったこともあると思いますが、ありがたいことに徐々に反応が温かく変わってきたように思います。

(事務局)

ところで堀添さんは民主党を離党されることはないのですか。

(堀添)

ご支援くださっている方から「いつ民主党を離れるの?」「次の選挙では民主党にいたら当選できないよ」というご指摘を受けることもあります。そうかもしれません。また、私が民主党にいて支援しづらく感じている方もいると思います。

(事務局)

それではなぜ民主党を離れて無所属として活動されないのですか。

(堀添)

私は民主主義の基本は政党政治だと思います。とくに複雑化・高度化している現代社会では、多くの課題に対してトータルに判断し政策にまとめあげなければなりません。そのためには、政治の分野でも専門集団が必要であると考えるからです。

民主党をはじめ既存政党は、本来の政党というよりは選挙互助会的な面を強く感じることもあります。しかし、だからといって政党を使い捨てにするようなことを重ねては、いつまでたっても状況は変わらないのではないのでしょうか。

民主党が結党以来掲げていた『一人一人がかげがえのない個人として尊重され、多様性を認めつつ互いに支え合い、すべての人に居場所と出番がある、強くてしなやかな共に生きる社会をつくる』という目標は、今でも大切な視点であると私は思います。それを担うことができる政党に近づける努力を重ねていくことが、「民主党に裏切られた」と感じている方々に対する私なりの責務ではないか、と考えています。

(事務局)

先日の市長選挙により、新たに福田市政が始まりました。川崎市の市政についてどのようにお考えですか。

(堀添)

子ども施策をはじめとする福祉分野や防災対策、身近な都市基盤整備や産業政策などの各々について、多くの取り組むべき課題があります。しかし私が一番重視しているのは、「川崎市としての政策決定のあり方」についてです。

川崎市の人口はまだ増えており、今や145万人にまで達しています。人口規模で言えば都道府県と同じレベルとなっており、とくに南北に細長い本市では、地域ごとの環境やニーズ、生活圏も大きく異なっています。川崎市は身近な行政サービスの担い手であるわけですから、少なくとも行政区を単位として政策を立案・決定できる仕組みが大切だと思います。

そのためには、行政区の体制を抜本的に強化することも必要ですが、同時に市議会も変わらなければなりません。市の基本方針を決定し、条例を策定し予算を決定するのは議会の役割ですから、市議会としても各行政区での活動に軸足を移すぐらいの取り組みが必要だと思います。

そして、なによりも大切なのは、政策決定を市長や議会にまかせきりにするのではなく、私たち市民がきちんとかかわる仕組みをつくるということです。「きちんと関わる」とは、情報を共有し、議論に参加し、合意形成も担うということです。

川崎市における自治の基本理念と原則を定めた『川崎市自治基本条例』の前文でも「私たち市民は、私たち自身が、このような地域社会の抱える課題を解決する主体であることを改めて確認する」と謳っています。これを単なる理念にとどめるのではなく、具体的な制度や運営に落とし込んでいかなければならないと思います。その時に大切な役割を担うのが「地域コミュニティ」であると私は考えています。

(事務局)

ありがとうございました。

(2013年12月12日)



「川崎市政に参加する会」

# 川崎市における放射線測定結果(12月14日現在)

浄水場：川崎市内の2か所の浄水場では、毎日放射能測定を行っていますが、一昨年4月22日以降、放射性ヨウ素、放射性セシウムとも検出されていません。

大 気：環境総合研究所、中原大気測定局、麻生大気測定局で、放射線量実態調査を毎月行っており、地上5cm、50cm、100cmとも自然界の放射線レベルの範囲内です。  
(11月は7日に実施)

市内農産物：果菜類(トマト、きゅうり)、根菜類(さつまいも、大根、玉葱)、果実(梅、梨、柿)の出荷前チェックでは、一昨年5月に梅(セシウム：29.5ベクレル/Kg)、10月に柿(セシウム：4.5ベクレル/Kg)から検出された以外は、検出されていません。  
(食品衛生法上の基準値は一般食品100ベクレル/Kg以下)

水道水：不検出

下水汚泥等：入江崎総合スラッジセンター(11月11日測定) 放射性セシウム測定  
脱水汚泥：不検出 汚泥焼却灰：532 Bq/Kg  
(焼却灰は飛散防止処理の上、施設内等で安全に保管されています。)

ごみ焼却灰：橘処理センター(11月5日測定) 放射性セシウム測定  
主 灰： 35 Bq/Kg  
飛 灰：153 Bq/Kg  
排ガス： 不検出

**放射線測定器の貸し出しを高津区役所でも行っています。  
(電話予約が必要です。044-861-3113)**

連載コラム 川崎と高津の地名 (No.17) 参考：上田恒三著「高津村風土記稿」  
日本地名研究所編「川崎の町名」

## 「蟹ヶ谷」の由来

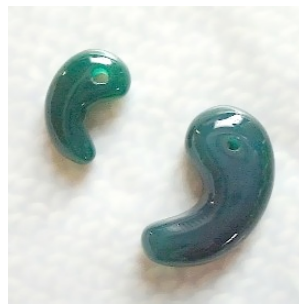
江戸時代に入る前は「神庭村(かにわむら)」と呼ばれていたようです。「神庭」とは、「神の祭祀をとり行う場」を指しますが、確かに東神庭遺跡(縄文時代後期から古墳時代後期頃)からは勾玉など古代前期の祭祀用具も見つかっていますので、これが地名の由来であるという説が有力です。

その他、自然地名と見る説もあります。「カニ」とは急崖で土地の剥落が多いところにつく地名であることから付いたという説と、「沢蟹の多い谷戸」から付いたという説もあります。

この地も明津と同様、江戸時代の初めは旗本領でしたが、元禄10年(1697年)に幕府の天領となっています。

明治22年の市町村制施行に伴い、蟹ヶ谷村は久末、明津、子母口、千年、新作、末長とともに7村合併し、橘村の大字となりました。

橘村は、昭和12年に川崎市に編入され、昭和47年の区制施行に伴い、高津区蟹ヶ谷となっています。



**毎週、最新ニュースを駅頭でお配りしています。**

水曜日 午前7時～8時半 溝口駅南口 / 金曜日 午前7時～8時半 梶が谷駅

**政治資金ご寄附のお願い**

地元から日本改革を実現するために、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

**「ほりぞえ健後援会」宛**

郵便振替：高津郵便局 口座00270-1-24169  
銀行振替：川崎信用金庫 高津支店 普通0796294